

| | | | | | | | |
|------|-----|-----------------------|------------|---------|----------|-------|----|
| 科目名 | | 言語発達障害Ⅲ(脳性麻痺、学習障害を含む) | 授業の種類 | 演習 | 講師名 | | |
| 授業回数 | 15回 | 時間数 | 30時間 (1単位) | 配当学年・時期 | 言語聴覚士科3年 | 必修・選択 | 必修 |

〔授業の目的・ねらい〕

「ことば」の発達は多面的な要素から成り立っていることから、その評価、治療方針、治療内容を総合的視点を持って臨む力を身に付けることを目標とする。

〔授業全体の内容の概要〕

言語発達をもたらす発達の要因について基礎的知識の理解を深め、各々言語発達障害の特性や検査、評価、指導・訓練のあり方、母親支援等の言語環境の整備について学ぶ。

〔講師の実務経験〕

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

言語発達障害児の臨床像を客観的に評価できるようになる。評価レポートが書けるようになる。

| 回数 | 講義内容 |
|----|-----------------------|
| 1 | 評価・直接実施検査 言語 ITPA ①理論 |
| 2 | ” ITPA ② |
| 3 | ” ITPA ③ |
| 4 | ” 知能 K-ABC |
| 5 | ” 言語 S-S法 ① |
| 6 | ” S-S法 ② |
| 7 | ” 言語 PVT |
| 8 | ” その他検査 |
| 9 | 評価レポート作成 ① |
| 10 | 評価レポート作成 ② |
| 11 | Faceシート作成 |
| 12 | 発達課題 |
| 13 | 訓練史 |
| 14 | 親支援、支援システム |
| 15 | INREAL |

【 準備学習・時間外学習 】

【 使用テキスト 】

| 書籍名 | 著者名 | 出版社 |
|-----------|-----|-----|
| なし・配布プリント | | |
| | | |

【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】

試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。